

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です！

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの

古重カ

NO.93



糸島市神在

ふじせ しんぱちろう

藤瀬 新八郎さん (37)



キャベツ苗の定植作業です。定植機は使わず手作業で行います。収穫も包丁を使った手作業です。腰に負担がかかる作業ですが、「もう慣れました」とのこと。この圃場は40畝ですが、キャベツの圃場6畝で、手作業をされます。



苗の定植用の道具です。藤瀬さんのオリジナルで、鍛冶屋さんで作ってもらっています。苗は露地栽培で自家製です。苗の出来は、その後の生育を大きく左右するので、苗作りの時は1日に2回は様子を見に行くそうです。



糸島市神在の藤瀬新八郎さんを紹介しました。今回は、就農して14年目を迎えられる、

◆農業経営の内容を教えてください

家族経営で、キャベツを6畝、米を50畝生産しています。

経営の中心はキャベツで、定植・収穫は父と母、私と妻の4人で行いますが、管理作業は基本的には私1人です。

収穫時期は11月から6月上旬です。年間約300トを出荷します。

早生品種から出荷が始まり、4月中旬からは中晩生品種に切り替わります。

品種は金春を中心に4品種です。

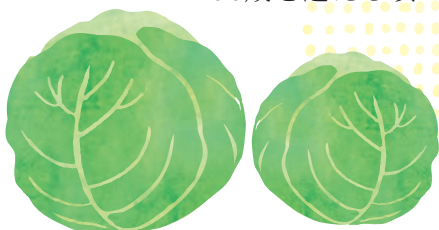
◆就農のきっかけは？

長男で一人っ子のため、幼い頃から農業を継ぐ気持ちでいました。小学校5年生の時に始めたサッカーを続けるため大学に進み、卒業後すぐに就農しました。

始めは父から農業を学びながら、問題が発生したら自分でネットや本で調べました。また、普及指導センターやJAの指導員に相談しながら問題に取り組んできました。

30歳を迎える頃には収量・品質とも安定

するようになり、農作業が楽しく感じるようになりました。



◆今、悩んでいることは？

今の悩みは鳥獣被害で、ここ数年、カモの食害に困っています。

行政やJAに相談していますが、効果的な対策はなかなか見つかりません。

◆心掛けていることは？

収量を落とさない事を一番に考えています。最近では気候が不安定ですが、ロスをできるだけ減らして、安定して生産できるように生産技術の向上を考えています。

霜の被害への対策にしても、現在は甘味料の一種トレハロースやアミノ酸など、口に入れても大丈夫なものを使うようになっています。

生産物への評価は、農家としての自分自身への評価と思っています。

◆将来の抱負は？

規模拡大や雇用による経営は、今は考えておらず、現在の規模を維持し続けることが目標です。

但し、敷かれたレールの上を走るただの2代目と思われたくはありません。

そのため、自分がやっているという意識を常に持ち続けることが、農業を続ける上で必要と考えています。